

人間、その心

「心」を向上させるための実践行動

－坂村真民先生を訪ねて松山・砥部へ－

2018年11月17日(土)

1. 真民先生をどう思っていたか(今までの経緯)

真民先生は、御自分自身を完全な人間では無いと思っており、
数々の失敗と挫折を繰り返し何とか乗り越えてきた。

つくりあげられた作品には自らの実生活が重ね合わされている。
真民先生のお考えは以下五つのカテゴリに集約できると考えた。

- 1) 自然の偉大さから学ぶ
- 2) 人生応援歌
- 3) 家族愛
- 4) 日常生活
- 5) 自己啓発

2. 何故、訪ねたか

1) 目的:「何のためにやるのか」という行動理由

- ・本当の真民先生を知るために現地現物
- ・今、自分が進もうとしている道は正しいかと問う
- ・少しマンネリ化した生活に潤いを持たす

2) 目標:「いつまでに、何をどうするのか」という行動理由

- ・砥部と真民記念館で真民先生を知る
- ・文献調査を実施する

3. 記念館での行動

12時35分

坂村真民記念館。念ずれば花ひらく。遂に来ることができた。3回の台風で直前に中止してきた。夜行バスの旅はちょっときつかった。記念館前の庭のベンチに座っている。落ち着いて、心と体を整える。



端正な坂村真民記念館と”念ずれば花ひらく”の石碑

12時45分

いよいよ入場する。どきどきしている。

ロビーは陽ざしを取り入れてとても明るい。
最初からたいへん居心地が良い。

出典:インターネット



とても明るいロビー 居心地が良い

展示室は日本調で大きな年譜からスタートし、
年代ごとに真民詩が直筆で紹介されている。
詩の内容に合った筆跡で先生の心模様を汲み取る
ことができる。

出典:インターネット



日本調の展示室はコンセプトがはっきりしている

ボランティアの長宗我部さん(80歳)から説明を聞く。
熱く真民先生の生の姿を語ってくれた。
この記念館は砥部町立だそうだ。

出典:インターネット

再現された書斎には致知2004年2月号の
真民先生の特集号があった。
真民先生の御存命の時の生の声が載っていた。
手と心が震えた。熟読したい。
どうしてもほしかった。



再現された書斎とそこにあった致知特集号

ビデオコーナーで初めて真民先生の肉声を聴けることになる。
淡々とお話しをされるそのお姿は、神々しく、やさしく、強いオーラを感じる。

- ・重信川を未明に渡るお姿は神々しかった。
- ・やさしく鳩に語り掛ける姿は神様の様であった。

お話は、熱く、たいへんわかり易い。
しばらく身動きできなかつた。

15時10分

胸が熱いまま、記念館を後にする。

4. 訪れて良かったこと

- 1) 先生がお住みになっていた砥部という街を知ることができた。
 - ・豊かな自然と焼き物文化のすばらしい街であった。



遊歩道には砥部焼の陶板が敷かれている

2) 先生が毎日朝4時に渡っていた重信川の橋を渡れた。

・先生のお姿が想像できた。

3) 記念館の美しさを知ることができた。

・先生の心の美しさを反映していた。

4) 大きな年譜を見ながらその時に作られた詩を味わえた。

・年代による生活の変化、それによる心の持ち方によって詩作が変わっていることがよくわかった

5) 先生が第二の母と慕っていた春苔尼様が

亡くなった時の詩は心に静かに響き続けた。

白百合の花

先生はもう

年をおとりにならない

美しいまま逝かれた

好きだった

白百合の花が匂う

出典：記念館パンフレット



バスで重信川を渡る



この詩の五行から春苔尼様のお優しさ、春苔尼様をどれだけ慕っていたか、春苔尼様の死がどれだけ悲しいか、読む人の心に痛いほど届く。

そして、真民先生の詩の表現力の広さと深さと美しさに感動する。

6) ビデオで先生の動くお姿と肉声が聞けた

・矍鑠とした立ち姿と優しい目、そして張りのあるお声にとっても親しみを感じた。

7) 先生の一を知ってびっくりした。が、自分もこのような生活がしたいと思った。

坂村真民の一日（65歳以降）

午前0時	起床
午前0時～2時	読経（妙法蓮華經、観世音菩薩、普門品、世尊偈） 座禅、「詩記」作成、読書
午前2時～3時	未明混沌の時間（一番、詩が生まれてくる）
午前3時36分	自宅庭木の木の下の99番碑にて、「寛の一刻の祈り」（いちばん宇宙の気が降りてくる時刻） 一度部屋に戻り、読経し、神拝し、出掛ける支度をする。
午前4時（季節によっては、もう少し遅く。夜明け前の時刻）	重信川を渡り、「彼岸の祈り」（月、明星、朝日からの光の吸引、人々の平安・家族の無事を祈り、詩願成就と「詩国」賦算の達成を願う）
午前5時	クコの実の粉をはちみつとハブ茶で漬いて飲む 仕事（詩作、書を書く）
午前7時	朝食基本パターン ○玄米(100%)ご飯(やわらかく炊く)、 ○味噌汁(麦味噌、豆腐又はワカメ、大根等)又は具汁（熊本の郷土料理：一晩水に漬けた大豆をすり鉢で擦って、水で溶き麦味噌を加え温めたもの） ○ゴマとイリコを擦ったものをご飯にかける ○魚（焼き魚又は煮魚） ○梅干し、ハブ茶 ○副菜として（煮豆、ひじき煮、おひたし、酢の物、野菜の和え物、野菜の蒸し物等から一品） ○はちみつ（ハブ茶に入れるか直接舐める）
午前8時～12時	仕事（詩作、書を書く）
午後0時	おやつ（ハブ茶(はちみつ入り)、茶菓子、饅頭、団子等）
午後1時～3時	手紙の返事書き、読書、詩国の宛名書き・発送作業、
午後3時	夕食基本パターン ○ホットケーキ（又は蒸しパン、市販のパン）又はうどん若しくはそば ○ハブ茶・はちみつ ○夏はトマト、冬は大根の煮物 ※ 60歳から75歳位までは、もう少し夕食はおかずを食べてた。 ※ ご飯は食べない。消化の良いものに限る。
午後4時	入浴
午後4時30分	就寝
(注) ハブ茶（漢方薬・豆を煎じる） 肉はほとんど食べない。（昔から）	

8)致知2004年2月号と巡り会えた。

(帰宅した日の翌日月曜日に致知出版社に電話でバックナンバー有無を確認。

一冊在り、御担当の誠意により水曜日に自宅着。その後熟読。

御担当の対応は、あたたかく、好意的で、致知の精神が生きている。感謝。)

・致知2004年2号は素晴らしかった。

更に真民先生のことを知ることができた。

特に印象に残った言葉を致知からピックアップする。

◆先生のお言葉：“目的は自分を作ること、詩は手段であること”を知る
『私は詩で賞をもらいましたが、私は詩人になるために詩を書くんじゃないんです。

自分をつくり上げるために詩を書いている。詩を書くことによって、自分というものをつくり上げる。それで詩を書いているわけです。』

◆先生のお言葉：“世のため、人のため”に改めて襟を正す

『僕に百歳まで生きてくださいという人がいるが、僕は百まで生きようとは思わない。何もしないで百まで生きたって、何にもならない。世のため人のために何かをして、百まで生きるのなら生きたいと思いますけどね。』

◆先生のお言葉：“常に心の修練が必要”と知る

『生身の人間には、いつどのような生活の激変がやってくるか知れない。そういう運命の岐路に立たされた時、立ちあがる人と落ちてゆく人に分かれる。無事平穩に過ごしている時は、何の心の修練もいらない、信仰もいらない。しかし、急に嵐がやってきた場合、備えを持つ人と持たない人とは、はっきり二分される。』

◆三女真美子さんに対する松原泰道老師のお言葉：素晴らしいと思う

『真美子さんが言うには「私はずっと両親と生活してきて、社会的に言えば決して裕福な生活とは言えないけれども、本当に清々しい生活をしてきた。」

先生の魂をお守りするために生まれてきたような方ですね。ほんと、朝露のような方ですよ。』

◆読者のお言葉：初めて知った事実。先生の詩の深さの一つの理由がわかった。

『花を摘んではお地藏さまに

水を汲んではお地藏さまに

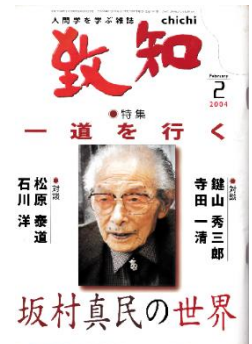
遊びつかれてお地藏さまの

み手に抱かれねむっている

忘れぬわが子を思うたび

お地藏さまの

限りない御恩が



こみあげてきて

この美しい美しい地藏

手を合わす

ああ、この方もお子様を亡くされたのだ。すぐに察しがつきました。

寺にお地藏様がたくさんいらっしゃることや、自分の子どもがまだ小さかったことなどから、先生の心情が痛いほど理解できたのです。』

6. 全体の行動

1) 日程

11月15日(金)

会社を終わって一度家に帰る

19時33分 大月発 特急あずさ

21時00分 新宿バスタ発 JR四国ドリーム号



三菱ふそうバスは乗り心地良い、
エンジン若干うるさい

11月16日(土)

8時40分 松山駅着

10時30分 伊予バス 砥部町着

砥部焼伝統産業会館→jutaroで昼食→商工会館前の砥部焼→
初雪盃酒造→陶坂の道→砥部町陶芸創作館→坂村真民記念館

15時30分 伊予バス 砥部町発

17時30分 道後温泉

19時20分 松山駅発 JR四国ドリーム号

11月17日(日)

6時55分 新宿バスタ着

8時33分 大月駅着 特急あずさ3号

2) 詳細行動

8時30分

バスの中、まもなくJR松山駅。

途中の山々の紅葉が綺麗だった。

四国の山は陰しい。少し先には先が尖った山が見える。

やっぱ旅は良い。

徐々に旅愁を味わう。

この先も旅を続けよう。

8時40分

JR松山駅に到着。質素でいかにも田舎の駅という感じ。
伊予鉄路面電車に乗る。
途中、時間がゆっくり流れる。
東京の忙(せわ)しさが無い。



JR松山駅は質素で田舎の駅



伊予鉄路面電車、
松山は伊予鉄オレンジ色一色

松山市駅(伊予鉄松山駅)は、駅ビルが高島屋と
コラボしており、規模感や洗練された雰囲気は
地方都市と思えない。

9時14分

松山市駅よりバスで砥部へ。
松山は良い所だ。
松山城を中心に置き、街全体がきれいで明るく活気がある。



いよてつ高島屋はまあ立派

10時15分

砥部着。
まずは砥部焼伝統産業会館。
ほとんどお客はいない。
砥部焼の総本山。
多くの作品を観ていて楽しい。



砥部焼伝統産業館の全景



砥部焼の大きな地球儀

11時00分

混むので早く行った方が良く教えてもらい、
カフェレストランJutaroへ。良いですねえ。
ジュタロウランチ ¥1500
サンマのチーズ田楽ホイル焼きをチョイス
ひじきの混ぜ御飯
完熟かぼちゃのプリン
有機栽培コーヒー
味噌汁美味！田舎味噌の匂い。
サンマの田楽とチーズのマッチングがお見事！
サラダは小魚のドレッシング
煮物の薄味で絶妙
ひじきの混ぜ御飯は、風味があって最高



カフェレストランJutaro 外も中も風情があって良い



ジュタロランチ 超リーズナブル

かぼちゃのプリンはとろけそう
有機栽培コーヒーはコーヒーの超味で最高



かぼちゃプリンと有機栽培コーヒー

11時20分
街並み探訪

商工会館前の砥部焼モニュメント。立派。
初雪盃酒造で試飲。粒入りにごり酒最高。
これは旨い。さっそく友人にお土産を。



造り酒屋 初雪盃酒造



砥部焼モニュメント『和』

陶坂の道。砥部焼の陶板が敷かれている。
全てが陶器。さすが陶器の町、砥部。



陶板の道 静寂である

丘の上の砥部町陶芸創作館では親子が
陶器を造っていた。
外の自動販売機の外板が、松山南高校砥部
分校のデザイン科の生徒による作品があった。
お上手。
外は暖かいというより熱い。半袖一枚になる。



砥部焼壁画と紅葉 絵になる



砥部焼の自動販売機

12時35分～15時10分
坂村真民記念館

15時30分
砥部発 松山へ
松山市内を坊ちゃん列車が走る。
この演出は最高。伊予鉄は素晴らしい。



坊ちゃん列車 素晴らしい

16時30分
伊予鉄路面電車で道後温泉を訪ねてみる。
道後温泉は3000年の歴史を誇るそうだ。
温泉に入りたかったが、フロ好きの小生
入れば長く、帰りのバス時間に間に合わな
くなる。短ければ湯冷めする。
泣く泣く中止。
いつの日か四国お遍路さんの時に来よう。
それまで待ってね。



歴史的な道後温泉

道後温泉で黒ゴマソフトクリームを食べる。
味がアンマッチで面白かった。

JR松山駅前で松山風鍋焼きうどんを食べる。
これは美味かった。うどんがなめらか、
汁が薄味で最高。



黒ゴマソフトクリーム



松山風鍋焼きうどん

7. まとめ

0泊3日の旅。若干体はきつかったが、本当に訪れて良かった。

1) 目的は達成できたか

- ・本当の真民先生を知るために現地現物
→真民先生のお姿を知っているようで、全然知らなかった自分に気が付く。
とはいえ、真民先生を深く知ったかというとまだまだと感じる。
知るきっかけを作ったのかもしれない。
- ・今、自分が進もうとしている道は正しいか
→正しい。世のため、人のため、そして家族のため、少し自分のため
- ・少しマンネリ化した生活に潤いを持たす
→旅は良い。すっかり潤った。

2) 目標は達成できたか

- ・砥部、真民記念館で真民先生を知る
→知るきっかけを作ったのかもしれない。
- ・文献調査を実施する
→現地及び帰ってきて多くの調査ができた。
記念館で購入した先生の日めくりカレンダーを毎日熟読している
(すいませんが、毎日必ず行くトイレに貼らせていただきました)

松山、砥部の文化も素晴らしい。
旅は多くのことを教えてくれる。
改めて、旅の心が再燃し始めた。

この経験を活かし、心で納得し、実践行動に生かそう。
更なる真民先生の研究を続行する。